

No.	感染症(PT)	出典	概要
75	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 314: 133-136	慢性消耗病(CWD)非感染シカをCWD陽性のシカの唾液、血液または尿・糞に曝露させた。その結果、CWDを伝播しうる感染性プリオンが唾液および血液中に認められた。CWDはシカ科の動物に容易に伝播すると言える。
76	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	血漿分画時にTSE物質を除去する研究のために、スクレイパーに感染した脳から水溶性の感染性検体を調整した。263Kスクレイパー感染ハムスターの脳を10%PBS中に懸濁し、低速遠心分離後、更に上清を超遠心(220000xg)した。得られた上清は感染性を有し、しかもPrPTSEの凝集体を全くまたはごくわずかしき含有しなかった。
77	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 70	PRDT(Pathogen Removal and Diagnostics Technologies)は、全血、RBCまたは血漿存在下で脳由来プリオンタンパク質およびTSE感染物と強く結合する高親和性リガンドを得るため、何百万もの化合物をスクリーニングした。その結果、PRDTのリード樹脂は赤血球存在下でも高濃度のTSE感染物を吸着し、低濃度の内因性TSE感染物を除去した。この樹脂を使用したMacoPharma P-Capt(TM)フィルターを用いることにより、輸血によるvCJD伝播リスクを軽減できる。
78	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。
79	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	平成18年8月23日に開催された薬事・食品衛生審議会血液事業部会安全技術調査会において、ヒト胎盤エキス(プラセンタ)注射剤使用者に対する献血制限措置を日本赤十字社が実施することが了承された。
80	コレラ	ProMED-mail20060728.2086	アンゴラでコレラが15番目の州に拡大し、死亡者は2089例となり、症例数は5万例を超えたとWHOが2006年7月24日に発表した。2006年2月13日からの症例数である。
81	コレラ	Weekly epidemiological record 2006; 81: 118-119	2006年1月28日から3月20日にスーダン南部全域で死亡例238例を含む急性水様性下痢患者8923例が報告された。最も患者数が多いJubaとYeiでは改善がみられているが、他の地域で稲葉型コレラと確定診断された症例もあり、アウトブレイクの監視が重要である。
82	デング熱	ProMED20060422-0090	ベネズエラで疫学週1週間のデング熱患者は722人で、うち42人(5.8%)がDHFであった。累計デング熱患者は11099人で、2005年同時期の患者数(8024人)と比較して28.9%上昇している。また、香港で、健康予防センター(Centre for Health Protection)は25才の女性のデング熱患者を確認した。これにより年間累計患者数は9人になった。全例とも輸入例である。
83	デング熱	ProMED-mail20060604.1553	台湾の環境保護局はデング熱のアウトブレイクに対して予防措置をとるよう呼びかけた。蚊が発生する場所をなくすことが唯一の予防策であると言っている。
84	デング熱	ProMED-mail20060719.1989	台湾Kaohsiungで2006年7月6日に初めての固有のデング熱症例が発見された。続いて更に6例が発見され、合計7例となった。デング蚊指数は常に高く、検査された地域の約92%で警戒レベルである。
85	デング熱	ProMED-mail20060730.2110	台湾の疾病管理センターは南部でデング熱の脅威が増加するおそれがあると2006年7月25日に発表した。今年のデング熱症例は59例であるが、そのうち17例が国内で感染しており、17例中15例がKaohsiung Cityで報告されている。
86	デング熱	ProMED-mail20060806.2196	Kaosiungにおけるデング熱のアウトブレイクの悪化は継続している。2006年7月6日にKaosiungのQienzeng地区でデング熱症例が報告されて以降、デング熱の発生は悪化している。これまでに報告された症例は28例で、同地区で25例、Qianjin地区で3例である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
87	デング熱	ProMED-mail20060901.2486	香港でMa On Shanの62才の男性がデング熱を確認された。2006年7月1日から28日まで中国本土へ旅行し、2006年8月1日に発熱し、現在は回復している。本年の症例数は22例で、全て輸入症例である。
88	デング熱	ProMED-mail20060911.2577	2006年9月4日現在、中国Guangdong省で、先週、デング熱症例数が倍以上の219例となり、半数がまだ入院中である。中国の専門家らは最近の高温多湿の天候や、蚊に対する取り組みが不十分であることがアウトブレイクの原因であるとしている。台湾では第35週(2006年8月27日～9月2日)に、デング熱症例90例が報告され、31例は検査で確認された。9月2日現在、今年の報告症例数は721例で、そのうち202例が確認された。死亡例は報告されていない。
89	トリパノソーマ症	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(29); 798-800	ロサンジェルスでの心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。
90	トリパノソーマ症	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 98	フランスでリスクのある供血者に対し、シャーガス病スクリーニング検査を行うこととなり、Bioelisa Chagas, Chagatek, Ortho T.cruzi ELISA Test System '1, ELISA Cruzi の4種類のTrypanosoma cruzi ELISAキットの感受性、再現性、特異性を評価した。感受性に関しては4種類の検査法で正確に検出された。再現性は24コピーのS/CO値の平均の変動係数によって示され、各々、6.30%、9.30%、15.7%、22.40%であった。
91	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
92	パルボウイルス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	血液プール中の感染性パルボウイルスB19を自動的に高速に検出するための方法を開発した。B19蛋白合成は免疫蛍光染色で検出され、ウイルスDNA合成はdot blot hybridizationと定量的PCRで検出された。調べられた細胞株の中ではUT7/Epo-S1がB19感染に最も感受性が高かった。
93	パルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトパルボウイルスB19DNA(1.6x10 ⁸ IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 ⁸ IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
94	パルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	市販されている凝固因子21製剤の202ロットを、パルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てのロットが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
95	パルボウイルス	Transfusion 2006; 46:1593-1600	パルボウイルスB19ジェノタイプ3流行地域であるガーナで、114組の成人供血者-小児受血者ペアにおける輸血によるB19の伝播および免疫学的特性について調べた。2例の供血者がパルボウイルスB19DNAと特異的抗体を含有していたが、伝播は見られなかった。B19 IgG含有の全血がB19DNA陽性受血者14例に輸血されていたが、その内、輸血前にVP2に対する抗体が認められなかった10例ではウイルスが除去された。
96	ハンタウイルス	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(22): 627-629	2006年1月から3月にかけて、米国ではArizona, New Mexico, North Dakota, Texas, Washingtonの5つの州で計9例のハンタウイルス肺炎候群ヒト確定症例が報告された。2005年に降水量が多く、げっ歯類が増加したことが原因として考えられ、2006年度はヒトでの感染の危険性が高くなることが示唆される。
97	ペスト	Weekly epidemiological record 2006; 81: 241-242	WHOは2006年6月13日までに100名の肺ペスト疑い患者がコンゴ共和国Oriental州Ituri地区で発生し、うち19名が死亡したという報告を受けた。現在のところ患者数は不明であるが腺ペスト患者の発生も報告されている。Ituri地区は世界中で最もペストが発生することで知られており、年間約1000例報告されている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
98	マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
99	マラリア	CDC 2006年6月30日	米国疾病対策予防センターは、パハマのグレートエグズーマ島におけるマラリア発生を確認し、旅行者に対して抗マラリア薬の使用を勧告した。2006年6月29日現在、患者数は合計18例で、うち4例が旅行者である。全員Plasmodium falciparumに感染していた。
100	マラリア	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(37): 1013-1016	2006年9月19日、CDCは米国在住のグレートエグズーマ島渡航者向けの抗マラリア薬服用勧告を解除した。2006年5月～6月の間に合計19例のマラリア症例が確認されたが、3ヶ月間新規症例の報告がなかったためである。
101	マラリア	ProMED-mail20060624.1758	キルギスタンの首都で79例のマラリア症例が登録された。予防手段を講じているにもかかわらず、流行が拡大中である。住民に問題を理解させるのが難しく、衛生疫学監視センターの職員は時々しか殺虫剤を散布することができない。
102	マラリア	ProMED-mail20061004.2843	中国東部の安徽省でマラリア感染が拡大している。地元の保健当局によると、今年に入ってから2006年9月25日時点で17917例が報告されており、昨年の同時期と比較すると89.8%増加している。保健当局は緊急通告を出して、感染の監視を強化し、拡大防止のためにマラリア予防と治療に関する啓発を行うよう地元自治体に要請した。
103	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシピエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシピエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。
104	レトロウイルス	Cell Transplant 2005; 14: 749-756	ランゲルハンス島移植のために使われるAN69中空ファイバー膜がブタ内因性レトロウイルス(PERV)の移行を防ぎ、PERV感染リスクを減らすかを調べた。PERV源としてPK15細胞を用いた。ヒトU293細胞を、カプセル封入PK15細胞(第1群)、カプセル封入PK15上清濃縮(第2群)、またはPK15上清濃縮(対照群)とともにin vitroでインキュベートした。第2群ではヒト細胞は全く感染しなかった。第1群では11検体中10検体は感染しなかったが、1検体は感染した。
105	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌はtuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、およびslyに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
106	レンサ球菌感染	N Engl J Med 2006; 354: 1325	アメリカでのStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例についての報告である。健康であった59歳の男性農業従事者が突然、発熱と錯乱を起こし、髄膜炎となった。血液と髄液培養によりS. suis感染と判明した。セフトリアキソンとバンコマイシン投与では状態が悪化したため、抗菌療法をアンピシリン静注に変更した。13日間入院後、症状はなくなり、退院した。患者は入院の数ヶ月前、子豚を近くの農場から購入したが、兄弟の子豚が髄膜炎で死んでおり、S. suisはその農場で検出された。
107	レンサ球菌感染	PLoS Med 2006; 3: e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2(SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
108	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
109	灰白髄炎	MMWR Weekly 2006; 55: 458-462	2005年1月から2006年3月までの世界的な野生型ポリオウイルス伝播撲滅の進行状況について述べた。World Health Assemblyによりポリオ撲滅運動が開始された1988年にはポリオ土着国は125ヶ国であったが、2005年には4ヶ国(アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン)に減少した。以前ポリオが根絶していたアジア、アフリカの22ヶ国で2003年以降に再感染したが、2005年7月以降は8ヶ国のみとなった。インド、パキスタンでも2004年に比べほぼ半減し、根絶に近づいている。
110	灰白髄炎	ProMED-mail20060621.1714	ナミビアでここ10年以上で初めてのポリオのアウトブレイクが発生した。1例目は2006年5月6日に発見され、確定された。2006年6月21日までに15例が死亡し、症例数は96例に急速に増加した。コンゴで2例、ニジェールで3例、野生型ポリオウイルスによるポリオの報告があり、輸入例であった。
111	ウイルス感染	CBS News/Healthwatch 2006年8月22日	中国Hunan省中部のChenzhou市でヒトボカウイルス感染の6症例(全て1歳以下の乳幼児)が報告された。これは新たに同定されたウイルスによる中国での最初の感染例である。
112	ウイルス感染	CDR Weekly 2006; 16(21)	2006年5月15日現在、HPA Special Pathogens Reference Unitにより確定された2006年の英国におけるチクングンヤ症例は48例である。血清学的にチクングンヤと診断された症例数は、1999年から2004年は年に平均6例、2005年は19例であった。患者の大多数はアジアかアフリカへの旅行歴があったが、2006年の患者のうち5例は旅行歴がなかった。インド洋諸島でのアウトブレイクは減少傾向であるが、非免疫旅行者にとって感染の危険はしばらく続くであろう。
113	ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングンヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
114	ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(Suppl 1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
115	ウイルス感染	PLoS Med 2006; 3: e263	インド洋諸島でのアウトブレイクを引き起こしているチクングンヤウイルスについて、127名の患者由来の6つのウイルス単離体の遺伝子配列ならびに糖蛋白質E1の部分的配列を調べた。その結果、アウトブレイクは東アフリカ単離体に関連のある株で始まったことが明らかとなった。アウトブレイク単離体の非構造蛋白では10個のアミノ酸変異が見られた。構造蛋白部分では膜融合糖蛋白E1に2つの注目すべきアミノ酸変異が見られた。E1蛋白のA226V変異は最初の株では見られなかったが、レユニオンからのウイルスの90%以上で見られた。
116	ウイルス感染	ProMED-mail20060801.2120	インドstate for health and family welfareの長官は、5つの州においてチクングンヤの高発生が報告されていると発表した。Andhra Pradeshで66109例、Karnatakaで543286例、Maharashtraで202114例、Tamil Naduで41211例、Madhya Pradeshで43784例である。
117	ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
118	ウイルス感染	WHO EPR 2006年8月8日	トルコ保健省は、2006年1月1日～8月4日のクリミア-コンゴ出血熱確定症例は242例(致死率8.3%)であったことを報告した。2006年6月30日以降症例92例および死亡9例が新たに報告された。死亡例のうち1例は治療に当たっていた医療従事者であった。
119	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	1992年以来、米国の医学研究所(IOM)は、「新興感染症は、新型の、または再興する、または薬剤耐性の感染症であり、ヒトでの発生率が過去20年で増加しているか、近い将来増加するおそれがある疾患」と定義している。現在、トリインフルエンザ、ウエストナイルウイルス、重症急性呼吸器症候群(SARS)コロナウイルスの3つが注目されている。供血中の感染物質の存在は、血友病患者の治療に使われる血液や血液由来製品の安全性に重大な影響を与える。病原体の検出と除去が重要である。
120	感染	ProMED-mail20060602.1540 Namibian 2006年6月2日	ナミビアのKatutura郊外北部で、3人が死亡し、19人が未確認の疾病で入院した。当局は、疾病がKhomas地方に限定されないこと、患者がOtjozondjupaと Hardap地方で報告されたことを報じた。サンプルが分析のために南アフリカに送られた。患者全員が末梢神経系に障害を生じるギランバレー症候群であったおそれがあるが、医療関係者は否定している。
121	感染	ProMED-mail20060621.1712	2006年6月12日以降、中国Shaanxi省Mizhi郡において生徒および教師60名が熱性疾患を発症している。大部分の生徒は高温および乾燥した空気が原因の呼吸器感染症を発症したと考えられ、より少数の生徒は流行性耳下腺炎および百熱咳を患っている。病原体の特定はまだされていない。
122	感染	ProMED-mail20060622.1727	原因不明の神経学的症候群により、ブラジルMaranhao州の南部地方で7人が死亡し、24人が入院した。大部分の患者は、15～49歳の若い農業労働者であった。症状は、足の知覚異常、歩行困難と呼吸不全で、心障害を経て死に至る。人から人へは伝染しないと思われる。血、糞便、皮膚と髪が試験検査に出され、分析はまだ終了していない。
123	感染	ProMED-mail20060728.2088	未知の疾病により、ネパールのHatiya村で7人が死亡し、大部分の住民が苦しんでいる。症状は頭痛、高熱、めまいで、14～15日後に患者は下痢で苦しみ、衰弱し、死に至ることさえある。疾病はほとんど全村に広がった。村長は死亡数が増加するだろうと言った。
124	感染	ProMED-mail20060811.2248	原因不明の疾病により、インドAllahabad地方のKoraon街で数人が死亡し、1人の患者が重態で入院した。疾病の診断は未確定である。
125	感染	ProMED-mail20060820.2339 People's Daily Online 2006年8月19日	未確認の疾病の流行により、ネパールのNetini村で7人の子供を含む少なくとも14人が死亡した。症状は、死亡時に鼻と口からの出血を伴う高熱である。疾病は、2006年6月の最後の週にイヌとワトリで最初にみられ、住民に広がった。
126	感染	ProMED-mail20060828.2449	中国南西のYunnan省のLuliang郡Xincun村で、住民39例が重度の疼痛に苦しみ、2006年8月22日までに1例が死亡し、3例が入院した。最初の調査結果により腸チフスが示唆された。
127	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
128	寄生虫感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 176-177	ヒトにおけるBertiella studeri感染の報告であり、このbertiellosis症例は中国で初めての報告である。患者はAnhui省Suzhou市の3.5歳の少年で、6ヶ月間にわたり頻りに腹痛を訴えていた。両親は便中に寄生虫がいることに気づいていた。初め、友鈞糸虫と診断されたが、Bertiella studeriであった。感染源は確定されていない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
129	結核	WHO 2006年9月5日	WHOは病原性が強く、致死性の結核の世界的な拡大防止の強化および措置を求めた。6クラスの第2選択薬の3クラス以上に耐性のある多剤耐性結核(XDR-TB)は世界の様々な地域で確認されており、特に旧ソビエト連邦やアジアで多い。また南アフリカではXDR-TBでHIV陽性である患者群で極めて高い死亡率が確認されている。
130	結核	結核 2006; 81(3): 310 第81回日本結核病学会総会	20代男性が、職場のサルが集団で結核を発症した後、しばらくしてから肺結核と診断され、RFLP分析の結果、サルからの分離菌と同一菌株であることが判明した。結核は人畜共通感染症になりうる。
131	口蹄疫	ベトナム文化情報省 2006年9月1日	ベトナムのハノイのSoc Son地区ではウシ75頭、ブタ39頭が口蹄疫に感染した。Thanh Tri地区では155頭が感染した。口蹄疫の流行はベトナムの12の地方に発生し、3300頭以上のウシ、1100頭のブタが感染した。
132	細菌感染	MMWR 2006; 55: 961-963	2004年12月から2005年2月に、汚染されたヘパリンフラッシュに関連した蛍光菌血流感染が4つの州で36人の患者に発生し、製品回収が行われた。その約3ヶ月後にミシガンとサウスダコタで蛍光菌感染患者が同定され、2006年4月現在、ミシガンで15例、サウスダコタで13例が、遅発性蛍光菌血流感染と診断された。発症までの期間は84日から421日であった。
133	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。バルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
134	細菌性胃腸炎	J Med Microbiol 2006; 55: 747-749	散発性エルシニア症の感染経路については、ブタと人との関連性は証明されていない。1995年から2003年にかけて、フィンランドとドイツで下痢のヒト282名の便およびブタ534頭の糞などから得た検体から単離された合計816株のY. enterocolitica 4/O:3を、制限酵素を使ったPFGEで関連性を検討した。その結果、両国共、ヒト由来株のほとんどはブタ由来株と区別ができず、一方、遺伝子型の大部分(182例中178例)は両国で異なっていた。両国でブタがヒトエルシニア症の重要な起源であると考えられた。
135	人畜共通感染症	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 273-280	ワクチン製造、ウイルス診断試験または原料試験に使われる細胞培養に添加する動物起源物質の使用は、ワクチンを汚染し、接種した動物で血清転換や疾患を引き起こし、検体の誤診断や間違った試験結果の原因となるおそれがある。血清や細胞培養をモニターするために獣医学生物学センターで用いられている方法を紹介した。培地や添加物としてウシやブタなどの動物起源原料を使用する際には、ヒトへの交差の可能性も考慮し、検査、血清フリー培地、起源の確認、ウイルス不活性化、検査方法の改良が必要である。
136	人畜共通感染症	第75回日本寄生虫学会大会 2006年5月19-20日	ネパールのカトマンズの小児病院で分離されたプラストシスチス株中に珍しい遺伝子型が検出され、それと同じ遺伝子型が現地の寺院に生息するアカゲザルから分離したプラストシスチス株に高率に見出された。このことから、当地におけるプラストシスチス感染の一部は、アカゲザル由来株がヒトへ感染伝播した可能性が高い。
137	赤痢	IASR 速報 pr3206	2006年8月中旬に中国に3日間出張し、帰国3日後より発熱、腹痛、粘血便を伴う下痢が出現した37歳男性は、便よりShigella sonneiが検出され、細菌性赤痢と診断された。5日間のFOM継続投与により症状軽快し、除菌確認後、第11病日に退院となった。分離菌はペニシリナーゼ産生、セファロスポリナーゼ非産生で、CTX-M型で、ESBL(extended-spectrum β -lactamase)産生性が示唆された。
138	赤痢	ProMED-mail20061020.3015	中国Sichuan省Mianzhou市の中学校において生徒100人余りが細菌性赤痢となり、計143人が症状を呈している。2006年10月10日から症状がみられ始めた。Anhui省Taihu郡の学校において細菌性赤痢が確認され(2006年10月13日に生徒数名において発見)、100名に症状がみられ、34例が入院中である。
139	炭疽	ProMED-mail20060615.1665	米国ミネソタ州Kittson郡のウシの群で、2006年6月10日~11日に、雌ウシ5頭および雄ウシ1頭が死亡しているのが発見された。血液サンプルが収集され、炭疽に陽性であったことが確定した。2006年6月15日現在、合計6例が死亡した。
140	炭疽	ProMED-mail20060626.1775	米国North Dakota州Emmons郡においてウシ2例が炭疽で死亡した。同州において2006年で初の症例である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
141	炭疽	ProMED-mail20060707.1868	米国Minnesota州で、2006年6月中旬にMinnesota Board of Animal Healthが2施設での炭疽による死亡を初めて報告してから、新たに9施設において家畜の死因として炭疽が確認された。この9施設で動物24例が死亡し、計31例の死亡となった。7施設はKittson郡にあり、ウマおよびバツファローにおいて炭疽が確認された。残り2施設はWoods郡であり、Woods郡のLakeの家畜において初めて記録された炭疽による死亡である。
142	炭疽	ProMED-mail20060721.2010	米国Minnesota州は87年間で最悪の家畜の炭疽のアウトブレイクに取り組んでいる。2006年6月中旬から、Minnesota州北西部の23の農場において、家畜68頭が死亡した。死亡した家畜の多くはウシであったが、バイソン5例およびウマ6例も死亡した。この最近のアウトブレイクはKittson, Roseau, Red LakeおよびLake of the Woods郡に限定されている。カナダも炭疽のアウトブレイクを報告している。
143	炭疽	ProMED-mail20060724.2044	米国South Dakota州の家畜に再び炭疽が発生している。Hyde郡のワクチン接種を受けていないウシの集団(最初に死亡した5例を含む約100例)における炭疽が報告され、2006年7月24日に州獣医診断研究所は診断を確定した。
144	炭疽	ProMED-mail20060726.2057	米国Texas州で、Val Verde郡のシカ、およびCrockett郡のウシにおいて炭疽が確定された。
145	炭疽	ProMED-mail20060726.2059	カナダChaplin地域の農場においてウシ3例が炭疽で死亡しているとCanadian Food Inspection Agencyが2006年7月21日に述べた。この夏、炭疽はSaskatchewanで既に発生しており、7月21日現在50の農場で216頭の動物が死亡している。
146	炭疽	ProMED-mail20060730.2107 ProMED-mail20060802.2141 ProMED-mail20060806.2195 ProMED-mail20060808.2228 ProMED-mail20060811.2257	カナダSaskatchewanで2006年7月初めに始まった炭疽のアウトブレイクで、隣のManitobaを含め、少なくとも746頭の家畜が死亡し、146農場が隔離されている。1950年代以降最大のアウトブレイクである。カナダの公衆衛生局は炭疽がヒトに感染する危険性は極めて低いと強調している。
147	炭疽	ProMED-mail20060916.2635	カナダSaskatchewanにおいて153施設で炭疽が確認された。これら施設における動物(ウシ、ウマ、ブタ、ヒツジ、バイソン、シカ、ヤギ)の死亡は783件である。Manitobaにおいては変更ない。
148	炭疽	ProMED-mail20060921.2699	米国Texas州で、2006年9月18日に、Texas Department of Health Servicesは獣医公衆衛生担当官らに、Texas Veterinary Medical Diagnostic Laboratory (TVMFL)によりKinney郡の4才のウシで炭疽の診断が確定されたことについて注意喚起を行った。
149	炭疽	ProMED-mail20061002.2822	中国Shaanxi省において1家族の3人が、病気のヤギを食べた後に炭疽に感染し、病院にて隔離・治療を受けている。
150	日本脳炎	ProMED-mail20060827.2441	中国Shanxi省Yuncheng市で日本脳炎のアウトブレイクによる死亡の合計は19例に増加し、感染者は38例であると地域保健当局が2006年8月12日に述べた。Henan省ではさらに14例が日本脳炎で死亡し、既に報告された26例の死亡に追加された。2006年7月以降、437例が感染したとHenan省保健当局は述べた。
151	日本脳炎	ProMED-mail20060909.2565	台湾の届出伝染病サーベイランスシステムに基づき、2006年8月27日～2006年9月2日に日本脳炎が台湾で7例報告された。2006年9月2日時点で、2006年に台湾全域で188例報告され、このうち20例が確認された。1例はベトナムからの輸入症例、19例は地域症例である。
152	野兔病	ProMED-mail20060601.1531	米国Texas州Rick Husband国際空港の東側で1羽のジャックラビットの死骸が回収された。現地付近では20羽以上の野兔が死んでいた。死骸はCDC細菌性動物寄生体症局へ送られ、蛍光抗体試験の結果、野兔病に陽性であった。コヨーテの死骸のダニも野兔病に陽性であった。殺虫剤の散布などヒトへの感染防止対策が採られている。